

度が高いとされ、かなり簡便であるが、蛍光強度の quenching で検出する方法のため、HPLC 測定法に比較すると正確性に欠ける恐れがある。

4. 細胞内での鉄代謝と 細胞内不安定鉄

循環血液中に認められ得る不安定鉄として NTBI があげられたが、細胞内においても不安定な鉄は存在する。

血液中に存在する鉄は、ヘモグロビン合成や DNA 合成をはじめとした各種の代謝に必須であるため全身の細胞に取り込まれるが、取り込まれた後の細胞内においても鉄は厳密に制御される必要がある。各種代謝に利用されず、細胞にとって余分となった鉄は、主に細胞質内のフェリチンと呼ばれる蛋白に格納される。フェリチンは、H-subunit と L-subunit という異なる 2 種類の分子が合計 24 個集合して構成されており、卵の殻のような形状で、内部に最大で 4,500 分子の鉄を貯蔵することができる²²⁾。このフェリチンのおかげで、細胞内では多くの鉄は free の形では存在しないですみ、過剰鉄が細胞に毒性を示すことが防がれている。しかし、細胞内の一部の鉄は LIP と呼ばれる free な形で存在すると考えられている。LIP は、細胞内各小器官と細胞質内での鉄の受け渡しなどを、種々の不安定な形態で速やかに行っていると考えられている鉄の「プール」である。フェリチンは十分な鉄貯蔵能力を有している上、細胞内鉄濃度が上昇すると、細胞はフェリチン蛋白の合成を亢進させてさらに格納能力を増やすように機能している。しかしながら、これらを超えるほど細胞内に多量の鉄が流入してくるようになると、フェリチンに格納しきれない分が LIP の増加につながる。LIP は free の鉄であるため容易に

ROS 産生に働き、細胞障害をもたらすことになる。

LIP の存在形態に関しては詳細は不明な部分も多いが、 Fe^{2+} と Fe^{3+} 両方の鉄イオン形態で存在し、鉄との親和性がそれほど強くない低分子物質と結合している。そのような低分子のキレート物質としては、アデニンやグアニンのような核酸、システインやチロシンのようなアミノ酸、あるいはクエン酸、アスコルビン酸、リン酸、リン脂質、ポリペプチドといった低分子化合物などが知られている。LIP は細胞内鉄総量の 3~5% 程度とその割合は極めて少ないとされるが、理論的には細胞内に取り込まれた鉄は、必ず一度は LIP を通過して目的となる鉄結合蛋白に至ることとなる。

LIP の動態には細胞内の種々の小器官が関与しており²³⁾、平衡状態での LIP レベルは、細胞内への鉄の供給、細胞内における鉄の需要、細胞外への排出のバランスによって調整されている。組織によってその様式は大きく異なるものの、細胞外から細胞内への鉄の取り込みに関しては、例えば TfR1 を介した Tf 結合鉄の取り込み経路や、 Fe^{2+} のトランスポーターである divalent metal transporter 1 (DMT1)^{24, 25)} や ZIP14²⁶⁾ などを経た NTBI の取り込み経路が知られている (図 4)。TfR1 を介した鉄取り込みであっても、細胞内エンドソーム内では Tf からはずれた Fe^{3+} が Fe^{2+} に還元された後、エンドソーム上の DMT1 によって細胞内に移動するため、いずれの経路によっても、細胞質に移動した直後の鉄は Fe^{2+} と考えられている。細胞に Tf 結合鉄や NTBI を負荷することにより細胞内の LIP レベルが増加することが知られており、細胞内への鉄供給が LIP レベルを規定する因子であると言えるが、これに加えて、細胞内からの LIP への鉄供給も認められる。例えばフェリチンは、鉄を貯蔵し有害な鉄を隔離する機

DMT1 (divalent metal transporter 1)

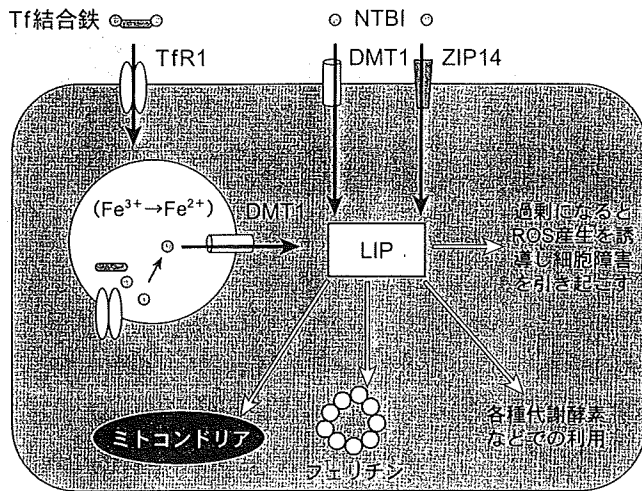


図4 細胞内のLIP

細胞は、トランスフェリン結合鉄(Tf結合鉄)をトランスフェリン受容体1(transferrin receptor 1: TfR1)で取り込んだり、NTBIをDMT1やZIP14などのtransporterによって取り込む。これらはいずれにしても一度細胞質内においてLIPとなり、それからミトコンドリアで利用されたり、フェリチンに格納されたり、その他の各種代謝に利用されたりする。細胞内でのバランスが崩れLIPが過剰になると、細胞に対して障害をもたらす。

能を有しLIPレベルを減少させる蛋白であるが、逆にLIPレベルが減少した際には蓄えた鉄分子を放出しそのレベルを維持している。また、主たる赤血球の処理細胞である網内系細胞においては、ヘム蛋白がheme oxygenase-1により分解されて生じる鉄は、LIP形成に重要な因子となる。

LIPレベルは臓器の種類によって異なっている²⁷⁾。例えば、赤血球産生を行う赤芽球では、Tfからの鉄はミトコンドリアのferrochelataseに非常に効率的に渡されヘム合成に使用されるため、細胞質にはほとんどLIPは検出できないと報告されている²⁸⁾。一方、マクロファージなどの網内系細胞では、赤血球を貪食しヘモグロビンを分解し、heme oxygenase-1によるヘム鉄の放出が行われているため、LIPの増加が予測されている。また、鉄の貯蔵を主に担う肝細胞においてもLIPの存在が確認されている¹¹⁾。

各細胞内小器官におけるLIPレベルも、細胞の種類によって異なると考えられている。ミトコンドリアは細胞内の主要な鉄消費器官であるが、同時にスーパーオキシドの産生部位でもある。ミトコンドリアでは、ヘムや鉄-硫黄クラスター蛋白へ取り込まれる鉄と、ミトコンドリアに入る鉄量は厳密にリンクしていることから、ミトコンドリア

内のLIPレベルは非常に少ないと考えられている。しかし、キレート可能な鉄の存在が培養肝細胞や心筋細胞のミトコンドリア内に認められ、キレート物質がミトコンドリア内でのROS産生を抑制することも報告されている²⁹⁾。また、鉄-硫黄クラスター蛋白合成に必須のfrataxin蛋白異常に起因するFriedreich's ataxiaや、ミトコンドリアの鉄トランスポーターであるABC7遺伝子の異常であるX連鎖性鉄芽球性貧血などのようなミトコンドリア内に鉄蓄積を来す疾患においては、ミトコンドリア内のLIPが増加し、病態形成に寄与している可能性も考えられている³⁰⁾。

5. 鉄キレート療法

これまで見てきたように、循環血液中のNTBIや細胞内におけるLIPは、フリーの形で存在する「不安定鉄」であり、細胞障害を引き起こし、各種の臓器障害にも強く関連していることが明らかとなってきた。こうした「不安定鉄」に対する治療として、単純ではあるがそれらの不安定鉄を除去する方法がまず考えられ、鉄キレート剤を用いた鉄キレート療法が期待される(表1)。

わが国では鉄過剰症に対して使用可能な唯一の

表1 鉄キレート剤の比較

	Desferrioxamine	Deferiprone	Deferasirox
投与経路	静注, 皮下注	経口	経口
血中半減期	短い (5 ~ 20 分程度)	やや短い (< 2 hours)	長い (8 ~ 16 hours)
投与方法	反復投与や持続投与が望ましい	1日2 ~ 3回の分割投与	1日1回投与
Molar chelating efficiency	High (hexadentate)	Low (bidentate)	Moderate (tridentate)
副作用	聴覚障害, 骨や成長への影響, 注射部位への局所皮膚反応など	重篤な顆粒球減少など	消化器症状, 軽度の発疹, 軽度の血清クレアチニン上昇 (腎障害) など

現在まで臨床応用されている3つの鉄キレート剤の比較を示す。

治療薬がDFOであった。DFOの登場はサラセミア・メジャー患者の生存率を向上させたが、血中半減期は約5～20分と短く、経口バイオアベイラビリティが低いのが欠点で、静脈内または皮下投与が行われるが、さらに十分な血中濃度を保つために反復投与や持続ポンプを使用しての皮下注射などの工夫が必要であった。そのため、コンプライアンスも当然のことながら不良であり、十分な臨床効果をあげられる症例は多くなかった。

欧州で使用されているdeferiproneは低分子量で2座配位の経口鉄キレート剤であり、心臓に蓄積した鉄を効果的に除去するとされるが、血中半減期が約1.5時間程度と短いため1日2～3回の分割投与が必要であり、さらに顆粒球減少症の副作用が出やすいという問題があった。

一方、最近本邦でも認可になったdeferasiroxは新規トリデント鉄キレート剤であり、鉄に高い選択性を示す3座キレート剤である。血中半減期が8～16時間と長いので、1日1回水に懸濁して服用することで、定期的なDFO投与と同等の有効性が認められる。有害事象も他剤にくらべ少なく、コンプライアンスを高めることができ、鉄過剰症の予防および治療に非常に期待が持たれている。Deferasiroxの投与で、サラセミアの患者においてLPIが実際に低下するという報告もある。さらに、deferasiroxは細胞内に入ることから細胞内LIPもキレートする可能性が考えられ、

鉄キレート療法が生体内不安定鉄を取り除くことで、将来的に鉄過剰によってもたらされ得る臓器障害を軽減、もしくは回避する可能性が示唆されている。

文 献

- 1) Aisen P, Enns C, Wessling-Resnick M: Chemistry and biology of eukaryotic metabolism. *Int J Biochem Cell Biol* **33** : 940-959, 2001
- 2) Gomme PT, McCann KB, Bertolini J: Transferrin: structure, function and potential therapeutic actions. *Drug Discov Today* **10** : 267-273, 2005
- 3) Andrews NC: Forging a field: the golden age of iron biology. *Blood* **112** : 219-230, 2008
- 4) Halliwell B, Gutteridge JMC: Role of free radicals and catalytic metal ions in human disease: an overview. *Methods Enzymol* **186** : 1-85, 1990
- 5) Ohhira M, Ohtake T, Matsumoto A, et al: Immunohistochemical detection of 4-hydroxy-2-nonenal-modified-protein adducts in human alcoholic liver diseases. *Alcohol Clin Exp Res* **22** : 145S-149S, 1998
- 6) Kato J, Kobune M, Nakamura T, et al: Normalization of elevated hepatic 8-hydroxy-2'-deoxyguanosine levels in chronic hepatitis C patients by phlebotomy and low iron diet. *Cancer Res* **61** : 8697-8702, 2001
- 7) Sahlstedt L, von Bonsdorff L, Ebeling F, et al: Effective binding of free iron by a single intra-

- venous dose of human apotransferrin in haematological stem cell transplant patients. *Br J Haematol* **119** : 547-553, 2002
- 8) Breuer W, Hershko C, Cabantchik ZI : The importance of non-transferrin bound iron in disorders of iron metabolism. *Transfus Sci* **23** : 185-192, 2000
 - 9) Greenberg GR and Wintrobe MW : A labile iron pool. *J Biol Chem* **165** : 397-398, 1946
 - 10) Jacobs A : An intracellular transit iron pool. *Ciba Found Symp* **51** : 91-106, 1976
 - 11) Kakhlon O, Cabantchik ZI : The labile iron pool : characterization, measurement, and participation in cellular processes (1) . *Free Radic Biol Med* **33** : 1037-1046, 2002
 - 12) Scheiber-Mojdehkar B, Lutzky B, Schaufler R, et al : Non-transferrin-bound iron in the serum of hemodialysis patients who receive ferric saccharate: no correlation to peroxide generation. *J Am Soc Nephrol* **15** : 1648-1655, 2004
 - 13) De Feo TM, Fargion S, Duca L, et al : Non-transferrin-bound iron in alcohol abusers. *Alcohol Clin Exp Res* **25** : 1494-1499, 2001
 - 14) Bradley SJ, Gosriwitana I, Srichairatanakool S, et al : Non-transferrin-bound iron induced by myeloablative chemotherapy. *Br J Haematol* **99** : 337-343, 1997
 - 15) Pepper JR, Mumby S, Gutteridge JM : Blood cardioplegia increases plasma iron overload and thiol levels during cardiopulmonary bypass. *Ann Thorac Surg* **60** : 1735-1740, 1995
 - 16) Aisen P : Transferrin receptor I. *Int J Biochem Cell Biol* **36** : 2137-2143, 2004
 - 17) Hershko C, Graham G, Bates GW, Rachmilewitz EA : Non-specific serum iron in thalassaemia: an abnormal serum iron fraction of potential toxicity. *Br J Haematol* **40** : 255-263, 1978
 - 18) Cabantchik ZI, Breuer W, Zanninelli G, Cianciulli P : LPI-labile plasma iron in iron overload. *Best Pract Res Clin Haematol* **18** : 277-287, 2005
 - 19) Singh S, Hider RC, Porter JB : A direct method for quantification of non-transferrin-bound iron. *Anal Biochem* **186** : 320-323, 1990
 - 20) von Bonsdorff L, Lindeberg E, Sahlstedt L, Lehto J, Parkkinen J : Bleomycin-detectable iron assay for non-transferrin-bound iron in hematologic malignancies. *Clin Chem* **48** : 307-314, 2002
 - 21) Esposito BP, Breuer W, Sirankapracha P, et al : Labile plasma iron in iron overload : redox activity and susceptibility to chelation. *Blood* **102** : 2670-2677, 2003
 - 22) Harrison PM, Arosio P : The ferritins : molecular properties, iron storage function and cellular regulation. *Biochim Biophys Acta* **1275** : 161-203, 1996
 - 23) Breuer W, Shvartsman M, Cabantchik ZI : Intracellular labile iron. *Int J Biochem Cell Biol* **40** : 350-354, 2008
 - 24) Gunshin H, Mackenzie B, Berger UV, et al : Cloning and characterization of a mammalian proton-coupled metal-ion transporter. *Nature* **388** : 482-488, 1997
 - 25) Shindo M, Torimoto Y, Saito H, et al : Functional role of DMT1 in transferrin-independent iron uptake by human hepatocyte and hepatocellular carcinoma cell, HLF. *Hepatol Res* **35** : 152-162, 2006
 - 26) Liuzzi JP, Aydemir F, Nam H, Knutson MD, Cousins RJ : Zip14 (Slc39a14) mediates non-transferrin-bound iron uptake into cells. *Proc Natl Acad Sci U S A* **103** : 13612-13617, 2006
 - 27) Kruszewski M : Labile iron pool : the main determinant of cellular response to oxidative stress. *Mutat Res* **531** : 81-92, 2003
 - 28) Richardson DR, Ponka P, Vyoral D : Distribution of iron in reticulocytes after inhibition of heme synthesis with succinylacetone : examination of the intermediates involved in iron metabolism. *Blood* **87** : 3477-3488, 1996
 - 29) Glickstein H, El RB, Shvartsman M, Cabantchik ZI : Intracellular labile iron pools as direct targets of iron chelators : a fluorescence study of chelator action in living cells. *Blood* **106** : 3242-3250, 2005
 - 30) Napier I, Ponka P, Richardson DR : Iron trafficking in the mitochondrion : novel pathways revealed by disease. *Blood* **105** : 1867-1874, 2005

1 Characterization of the Interaction between Diferric 2 Transferrin and Transferrin Receptor 2 by Functional 3 Assays and Atomic Force Microscopy

4 Katsuya Ikuta^{1,2*}, Alexandre Yersin³, Atsushi Ikai^{2,3}, Philip Aisen²
5 and Yutaka Kohgo¹

62 ¹Division of Gastroenterology
63 and Hematology/Oncology,
64 Department of Medicine,
65 Asahikawa Medical College,
66 2-1-1 Midorigaoka-Higashi,
67 Asahikawa, Hokkaido
68 078-8510, Japan

69 ²Department of Physiology and
70 Biophysics, Albert Einstein
71 College of Medicine, 1300
72 Morris Park Avenue, Bronx,
73 NY 10461, USA

74 ³Graduate School of Bioscience
75 and Biotechnology, Tokyo
76 Institute of Technology,
77 4259-88 Nagatsuta-cho,
78 Midori-ku, Yokohama
79 226-8501, Japan

80 Received 11 August 2009;
81 received in revised form
82 29 December 2009;
83 accepted 13 January 2010

84 Edited by W. Baumeister

Transferrin receptor 2 (TfR2), a homologue of the classical transferrin receptor 1 (TfR1), is found in two isoforms, α and β . Like TfR1, TfR2 α is a type II membrane protein, but the β form lacks transmembrane portions and therefore is likely to be an intracellular protein. To investigate the functional properties of TfR2 α , we expressed the protein with FLAG tagging in transferrin-receptor-deficient Chinese hamster ovary cells. The association constant for the binding of diferric transferrin (Tf) to TfR2 α is $5.6 \times 10^6 \text{ M}^{-1}$, which is about 50 times lower than that for the binding of Tf to TfR1, with correspondingly reduced rates of iron uptake. Evidence for Tf internalization and recycling via TfR2 α without degradation, as in the TfR1 pathway, was also found. The interaction of TfR2 α with Tf was further investigated using atomic force microscopy, a powerful tool used for investigating the interaction between a ligand and its receptor at the single-molecule level on the living cell surface. Dynamic force microscopy reveals a difference in the interactions of Tf with TfR2 α and TfR1, with Tf–TfR1 unbinding characterized by two energy barriers, while only one is present for Tf–TfR2. We speculate that this difference may reflect Tf binding to TfR2 α by a single lobe, whereas two lobes of Tf participate in binding to TfR1. The difference in the binding properties of Tf to TfR1 and TfR2 α may help account for the different physiological roles of the two receptors.

© 2010 Published by Elsevier Ltd.

Keywords: iron metabolism; transferrin; transferrin receptor 2; atomic force microscopy; functional assay

*Corresponding author: 2-1-1-1 Midorigaoka-Higashi, Asahikawa, Hokkaido 078-8510, Japan. E-mail address: ikuta@asahikawa-med.ac.jp.

Present address: A. Yersin, Gymnase de Beaulieu, Rue du Maupas 50, 1004 Lausanne, Switzerland.

Present address: A. Ikai, Innovation Laboratory, Tokyo Institute of Technology (S2-8), 4259, Nagatsuta-Cho, Midori-Ku, Osaka, Japan.

Abbreviations used: TfR2, transferrin receptor 2; TfR1, transferrin receptor 1; Tf, diferric transferrin; AFM, atomic force microscopy; CHO, Chinese hamster ovary; PBS, phosphate-buffered saline; TCA, trichloroacetic acid; PTA, phosphotungstic acid; GFP, green fluorescent protein; BSA, bovine serum albumin.

Introduction

Iron is essential for all living organisms and is required for numerous metabolic processes. In vertebrates, and at least in some invertebrates with circulatory systems, almost all circulating iron is carried by diferric transferrin (Tf) to provide iron for cellular needs. The initial event in the cellular uptake of iron is the binding of Tf to transferrin receptor 1 (TfR1)¹ on the plasma membrane of cells, followed by endocytosis of the Tf–TfR1 complex. HFE²—the protein that, when mutated, is responsible for hereditary hemochromatosis—has been shown to combine with TfR1

71 and to reduce its affinity for Tf,³⁻⁶ but the
72 physiological functions of HFE are still not fully
73 understood. In the acidified Tf-bearing endosome,
74 iron is released from Tf and carried into the cytosol
75 by divalent metal transporter 1.⁷⁻⁹ After the release
76 of its iron, Tf, still bound to the receptor in the
77 acidified endosome, is recycled to the cell mem-
78 brane and released from TfR1 at the cell surface
79 where iron-free Tf is not bound by the receptor at
80 pH 7.4. Most cells other than hepatocytes have been
81 thought to depend chiefly or exclusively on the
82 TfR1 cycle for securing iron from Tf.¹⁰⁻¹²

83 A second transferrin receptor, transferrin receptor
84 2 (TfR2), was cloned and identified as a new
85 member of the transferrin receptor class.¹³ TfR2
86 has two isoforms: TfR2 α and TfR2 β . TfR2 α is
87 thought to be a type II membrane protein like
88 classical TfR1.¹⁴ TfR2 β is probably an intracellular
89 protein because its amino acid sequence lacks
90 transmembrane portions. Although its affinity for
91 Tf is less than that for TfR1, TfR2 α binds Tf and
92 therefore may participate in cellular iron uptake,
93 while the physiological function of TfR2 β is un-
94 known. Mutations of the TfR2 gene reduce hepcidin
95 expression, resulting in iron overload and indicating
96 that TfR2 may function primarily as a regulator of
97 hepcidin production. However, the precise mech-
98 anisms of TfR2 α involvement in cellular iron met-
99 abolism have not been elucidated, largely due to lack
100 of information about the properties of the TfR2 α
101 protein. We therefore aimed to characterize the
102 interactions of TfR2 α with Tf by functional assays
103 and atomic force microscopy (AFM), a powerful tool
104 for investigating the interaction between a ligand
105 and its receptor at the single-molecule level on a
106 living cell surface.¹⁵

107 Results

108 Total protein contents

109 TfR1-deficient Chinese hamster ovary (CHO)
110 TRVb cells were transfected with a TfR2 α expression
111 vector or mock vector, with no detectable change in
112 cell morphology observed in culture wells by light
113 microscopy. The total protein contents were $113 \pm$
114 20 pg/cell ($n=10$) for wild-type TRVb cells, $127 \pm$
115 19 pg/cell ($n=10$) for TRVb-TfR2 α cells, and $120 \pm$
116 15 pg/cell ($n=10$) for TRVb mock cells. Thus,
117 transfection of TRVb cells with the TfR2 α expres-
118 sion vector did not cause any remarkable change in
119 cellular protein concentration.

120 Expression of TfR2 α and its binding to Tf

121 Transfection of TRVb cells with the TfR2 α
122 expression vector resulted in much higher Tf
123 binding at 4 °C compared to wild-type TRVb cells
124 or the mock-transfected clone (Fig. 1). Tf binding to
125 TRVb cells and TRVb mock cells showed a
126 nonsaturable, almost linear, behavior characteristic

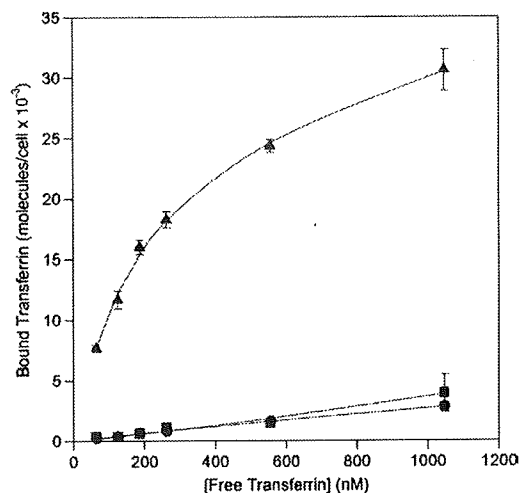


Fig. 1. Tf binding to TRVb (●), TRVb-TfR2 α (▲), and TRVb mock cells (■) at 4 °C. Cells were incubated with [¹²⁵I]Tf at 4 °C for 1 h, washed to remove unbound Tf, and then solubilized for counting. TRVb-TfR2 α cells showed a saturable binding curve, with an association constant of 5.6×10^6 M⁻¹ and 2.8×10^4 binding sites/cell. The experiment was performed in triplicate.

of nonspecific binding. In contrast, expressed cell
surface Tf binding sites in TRVb-TfR2 α cells
saturated at 2.8×10^4 Tf molecules/cell, with the
association constant K_a calculated to be
 5.6×10^6 M⁻¹. Since TRVb-TfR2 α cells and TRVb
mock cells were maintained at 30 μ g/ml puromycin,
but TRVb cells were maintained without puromycin,
TRVb mock cells were used as controls for
further studies.

136 Cell-associated Tf at 37 °C

137 Total cell-associated Tf at 37 °C increased as a
138 function of Tf concentration in TRVb-TfR2 α cells
(Supplementary Fig. 1). The cell-associated Tf in
139 TRVb mock cells, however, also increased as a
140 function of Tf concentration, even though cell-
141 associated Tf was less than that seen in TRVb-
142 TfR2 α cells. To determine whether transfection was
143 responsible for this increase in cell-associated Tf in
144 mock cells, we measured cell-associated Tf in wild-
145 type TRVb cells at 37 °C. There was no remarkable
146 difference between wild-type TRVb and TRVb mock
147 cells, indicating that transfection itself did not cause
148 the Tf association in mock cells (data not shown).
149 Since TRVb cells lack detectable TfR1, this associa-
150 tion with Tf must be receptor-independent. The
151 difference between cell-associated Tf in TRVb-TfR2 α
152 cells and cell-associated Tf in TRVb mock cells as a
153 function of Tf concentration—presumably due to Tf
154 bound to TfR2 α and Tf internalized via TfR2 α in the
155 former, but not in the latter—approached a constant
156 value.
157

Q1

t1.2 **Table 1.** Tf internalized by TRVb-TfR2 α cells via TfR2 α

t1.3	Procedure	Molecules/cell
t1.4	[1] Total Tf associated with TRVb-TfR2 α cells after incubation for 1 h at 37 °C	47,800
t1.5	[2] Cell-associated Tf after acid washing	26,500
t1.6	[3] Tf removed by acid washing	21,300
t1.7	[4] Tf initially bound to TfR2 α at the cell surface (10/9 \times [3])	23,700
t1.8	[5] Tf initially bound to TfR2 α at the cell surface but resistant to acid washing	2370
t1.9	[6] Tf internalized by all pathways ([2]-[5]), also non-specifically bound and resistant to acid washing	24,100
t1.10	[7] Tf in mock cells (non-specifically bound and resistant to acid wash)	6600
t1.11	[8] Tf internalized via TfR2 α in TRVb-TfR2 α cells ([6] and [7])	17,500

158 Efficiency of the acid wash method

159 Our acid wash method removed approximately
160 90% of the cell surface membrane-bound Tf in
161 TRVb-TfR2 α cells compared to normal phosphate-
162 buffered saline (PBS) washing (data not shown).
163 In addition to acid washing, washing with F-12
164 medium was necessary to remove bound Tf,
165 suggesting that, like TfR1, TfR2 α binds apotransferrin
166 at acidic pH but not at neutral pH.¹⁴ Addition of
167 cold Tf into F-12 medium at pH 7.4 did not enhance
168 the effectiveness of washing, verifying that washing
169 at pH 7.4 is sufficient for removing cell-surface-
170 bound apotransferrin.

171 Evidence for Tf internalization mediated by 172 TfR2 α

173 After 1 h of incubation at 37 °C, cell-associated Tf
174 in TRVb-TfR2 α cells and TRVb mock cells repre-

sents both internalized Tf and nonspecific cell-
175 surface-bound Tf that are resistant to acid washing. 176
177 Tf in TRVb-TfR2 α cells was 26,500 molecules/cell,
178 much higher than the 6600 molecules/cell seen in
179 TRVb mock cells (Table 1). Although the effective-
180 ness of the acid wash method is only about 90%, the
181 difference in cell-associated Tf between transfected
182 cells and mock cells is too great to be attributed to
183 residual cell-surface-bound Tf and therefore repre-
184 sents Tf internalized via TfR2 α . We calculate that
185 about 17,500 Tf molecules/cell are internalized by
186 TfR2 α (Table 1).

187 Iron uptake

188 Iron uptake by TRVb-TfR2 α cells after 1 h of
189 incubation at 37 °C was not clearly different from
190 that by TRVb mock cells, even though there were
191 small differences at high concentrations of Tf
192 (Fig. 2a). To investigate whether or not induced
193 TfR2 α protein actually can donate iron to the cells,
194 we determined the time course of ⁵⁹Fe uptake. Only
195 after 1 h did a difference between TRVb-TfR2 α cells
196 and TRVb mock cells become clear (Fig. 2b). Thus,
197 TfR2 α -associated Tf could donate iron to cells,
198 although its rate of donation is much less than that
199 provided by Tf associated with TfR1. The data also
200 indicate that CHO cells exhibit receptor-independ-
201 ent iron uptake from Tf, as described earlier.¹⁶

202 Efflux of Tf

203 To investigate the fate of Tf taken up through
204 TfR2 α , we incubated TRVb-TfR2 α cells with ¹²⁵I-
205 labeled Tf and acid-washed them before the time
206 course of efflux was determined (Fig. 3). At time 0, Tf
207 internalization by TRVb-TfR2 α cells was higher than

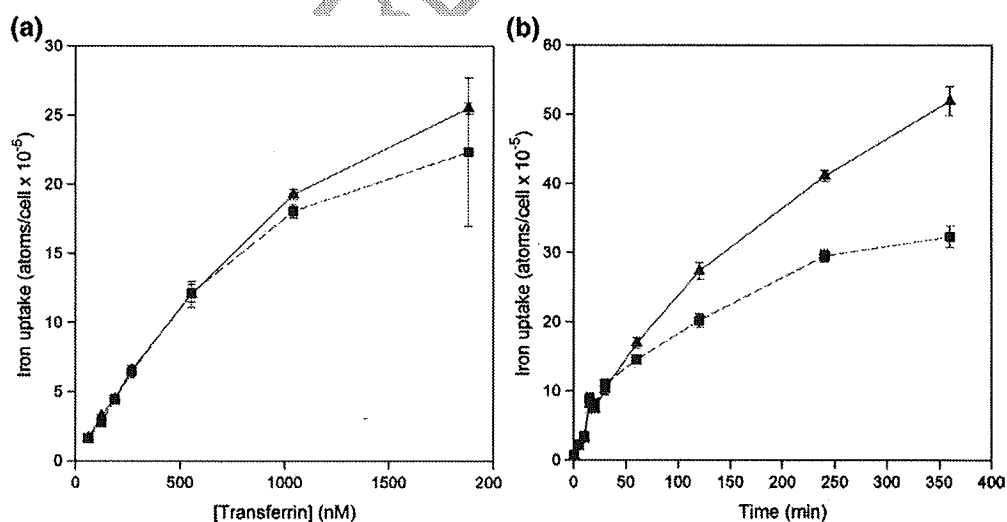


Fig. 2. Iron uptake at 37 °C as a function of Tf concentration (a). TRVb-TfR2 α cells (\blacktriangle) and TRVb mock cells (\blacksquare) were incubated with [⁵⁹Fe]Tf at 37 °C for 1 h, washed to remove unbound Tf, and then solubilized for counting. This experiment was performed in triplicate. Iron uptake at 37 °C with time was also investigated (b). TRVb-TfR2 α cells (\blacktriangle) and TRVb mock cells (\blacksquare) were incubated with 8.1×10^{-7} M [⁵⁹Fe]Tf at 37 °C for the indicated time, washed to remove unbound Tf, and then solubilized for counting. This experiment was also performed in triplicate.

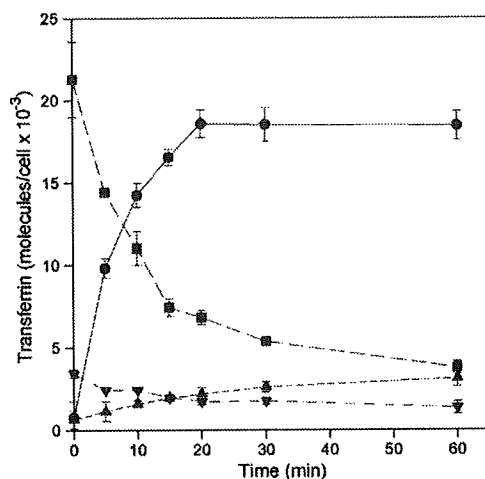


Fig. 3. Time course of Tf efflux. TRVb-TfR2 α cells and TRVb mock cells were incubated with 3.5×10^{-7} M [125 I]Tf at 37 °C for 1 h, washed to remove unbound Tf, and then acid-washed to remove Tf bound to cell surface receptors. Cells were then incubated at 37 °C for the indicated times, the medium was collected, and solubilized cells were taken for counting. Tf exocytosed into the medium from TRVb-TfR2 α cells (●) and TRVb mock cells (▲), and Tf retained in TRVb-TfR2 α cells (■) and TRVb mock cells (▼), are shown. Experiments were performed in triplicate.

208 Tf internalization by TRVb mock cells, in keeping
209 with Tf internalization by TfR2 α , as discussed above.
210 Internalized Tf mediated by TfR2 α was exocytosed
211 from TRVb-TfR2 α cells; approximately 80% of Tf
212 taken up via TfR2 α was released by 30 min. The
213 indication is that an effective efflux route exists for Tf
214 taken up by TfR2 α , suggesting that TfR2 α , like TfR1,
215 is recycled by the cells.

216 In a further investigation of the TfR2 α pathway,
217 the degradation of Tf internalized by TfR2 α was
218 determined. After 60 min, approximately 90% of Tf
219 exocytosed from TRVb-TfR2 α cells was precipitable
220 by trichloroacetic acid (TCA)/phosphotungstic acid
221 (PTA), indicating that Tf bound to TfR2 α has
222 recycled without substantial degradation in cells.

223 Pulse-chase study

224 To determine the fraction of cell-membrane-
225 bound Tf that is internalized and the recycling
226 time, we performed a pulse-chase experiment
227 (Supplementary Fig. 2). Almost all Tf initially
228 bound to TfR2 α at 4 °C was released into the culture
229 medium after 10 min of incubation at 37 °C, and
230 there was no significant internalization of cell-
231 surface-bound Tf in the single cycle of this pulse-
232 chase study.

233 Absence of TfR1-TfR2 heterodimers

234 The effectiveness of anti-FLAG M2 antibody and
235 anti-TfR1 antibody in immunoprecipitation had

236 been confirmed before these experiments were
237 undertaken (data not shown). HuH-7 cells, which
238 express detectable TfR1 by Western blot analysis,
239 were transiently transfected with the TfR2 α expres-
240 sion vector, and cell lysates were taken for
241 immunoprecipitation and Western blot analysis
242 (Supplementary Fig. 3). Western blot analysis by
243 anti-TfR1 antibody for the samples without immu-
244 noprecipitation showed that HuH-7 cells and
245 HuH-7 cells transfected with TfR2 α express almost
246 identical amounts of TfR1. Furthermore, Western
247 blot analysis by anti-TfR2 antibody for the samples
248 not subjected to immunoprecipitation showed that
249 HuH-7 cells transfected with TfR2 α express more
250 TfR2 α proteins than nontransfected HuH-7 cells.
251 These data indicated that the transiently trans-
252 fected cells overexpressed TfR2 α protein and that
253 the antibodies were highly effective for Western
254 blot analysis. When immunoprecipitation was
255 performed with anti-TfR1 antibody, a band was
256 clearly detected in transfected and nontransfected
257 cells, but no band was found with the anti-TfR2
258 antibody. If a TfR1-TfR2 heterodimer were pres-
259 ent, anti-TfR1 antibody would precipitate that
260 protein, and Western blot analysis with anti-TfR2
261 antibody would show the band. When immuno-
262 precipitation was performed with anti-FLAG M2
263 antibody, a 100-kDa band was detected only in
264 transfected cells when the anti-TfR2 antibody was
265 used as the primary antibody in Western blot
266 analysis, indicating that transient transfection
267 resulted in expression of immunoprecipitable
268 TfR2 α protein. No band was detected when anti-
269 TfR1 was used as the primary antibody. Prolonged
270 exposure of the blotted membrane to the develop-
271 ing solution did not make a difference. The
272 possibility that the N-terminal FLAG tag in
273 TfR2 α interferes with dimer formation is unlikely,
274 since the recombinant TfR1 lacking the first 120 N-
275 terminal intracellular residues spontaneously
276 dimerizes.¹⁷ These results indicate that no detect-
277 able heterodimer of TfR1 and TfR2 α was formed
278 by the TfR2 α -transfected HuH-7 cells. Therefore,
279 our experiments detect TfR2, not the heterodimer
280 of TfR1 and TfR2.

281 Specificity of detection by AFM

282 HLF cells (human hepatoma) were transiently
283 cotransfected with TfR2 α and green fluorescent
284 protein (GFP) for identification, and tested with a
285 Tf-coated tip. Retraction force curves were recorded
286 with a Tf-coated tip and showed specific unbinding
287 events between Tf on the tip and TfR2 α at the cell
288 surface (in Tris-buffered saline, pH 7.4) (Fig. 4a).
289 The probability of binding between the Tf-coated
290 tip and the TfR2 at the cell surface reached 26%
291 ($n=7$ cells). In contrast, when nontransfected cells
292 were tested with a Tf-coated tip, this probability
293 was only 6% ($n=12$ cells, $p<0.001$, t test). This
294 indicated that transient transfection of the TfR2 α
295 expression vector was adequate for the investiga-
296 tion using AFM (Fig. 4b).

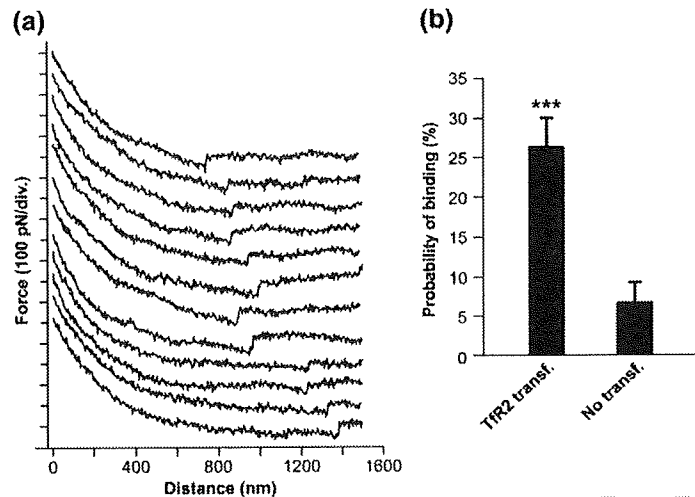


Fig. 4. (a) Retraction force curves on living HLF cells, transfected with TfR2 α . The curves show specific unbinding events between Tf on the probe tip and TfR2 α at the cell surface [in Tris-buffered saline (pH 7.4)]. (b) Specificity of detection by AFM. HLF cells (human hepatoma) were transiently cotransfected with TfR2 α and GFP, and tested with a Tf-coated tip. The probability of binding was 26% ($n=7$ cells). In contrast, on nontransfected cells, the probability was only 6% ($n=12$ cells, $p<0.001$, *** t test).

297 Force histogram for specific interaction between 298 Tf and TfR2 α

299 We recorded 1500 force curves with a Tf-coated
300 tip on TfR2-transfected cells, allowing us to collect a
301 total of 573 specific unbinding events in an
302 experiment performed with a single tip using two
303 cells. Events were analyzed and plotted in a force
304 histogram (Fig. 5). A clear peak was visible on the
305 histogram, showing that the mean unbinding force
306 between Tf on the tip and TfR2 at the cell surface
307 was 63 ± 8 pN (at a mean loading rate of 2.8 nN/s).
308 The experiment was repeated several days later
309 using a new tip with cells independently cultured
310 and gave similar results.

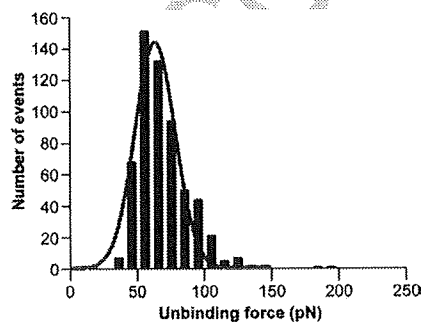


Fig. 5. Force histogram for the specific interaction between Tf and TfR2 α on HLF cells. The histogram was obtained from an analysis of 573 unbinding events collected over 1500 force curves. The mean unbinding force is 63 ± 8 pN for a mean loading rate of 2.8 nN/s. The gray line represents a Gaussian fit.

Dynamic force spectroscopy

311

Dynamic force spectroscopy, which consists of
312 measuring the mean unbinding force at different
313 loading rates, was performed with a Tf-coated tip on
314 TfR2-transfected cells. As expected, the force was
315 logarithmically dependent on the loading rate (Fig.
316 6). However, this dependence was small, as the force
317 varied from 59 ± 9 pN at a rate of 1.7 nN/s to
318 62 ± 10 pN at a rate of 20 nN/s. In striking contrast,
319 the unbinding force between TfR1 and Tf was
320 reported at 39 ± 5 pN at a rate of 1 nN/s and
321

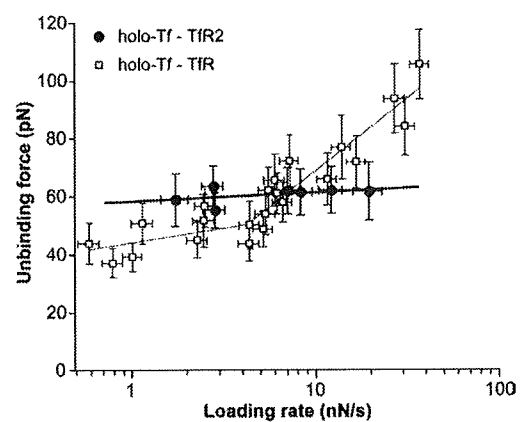


Fig. 6. Dynamic force spectroscopy of Tf-TfR2 α (black dots). The unbinding force is plotted as a function of the loading rate logarithm. For comparison, the force spectrum of Tf-TfR1 is also shown. Only one regime is evident for TfR2, but two can be seen for TfR1, clearly revealing the different interactions of the two proteins with Tf.

322 increased up to 94 ± 12 pN at a rate of 27 nN/s,¹⁵
 323 indicating that the binding of TfR2 α and Tf differs
 324 from the binding of TfR1 and Tf. Furthermore, the
 325 force spectrum of TfR2-transfected cells displayed
 326 only one regime (slope), while two regimes were
 327 clearly visible for TfR1-expressing cells (Fig. 6),
 328 implying different interactions of Tf with TfR1 and
 329 TfR2.

330 Discussion

331 In their original publication, Kawabata *et al.*
 332 reported that TfR2 α can bind Tf and donate iron
 333 to CHO cells,¹³ therefore supporting cell
 334 growth.¹⁴ Fleming *et al.* found that TfR2 expres-
 335 sion is not regulated by intracellular iron status
 336 and thus might be involved in the pathogenesis of
 337 hemochromatosis.¹⁸ Although TfR2 is thus shown
 338 to function in iron metabolism, its precise
 339 physiological role is still unknown.

340 To avoid confusion by TfR1, our first studies used
 341 HuH-7 cells with anti-sense suppressed TfR1
 342 expression.^{19,20} The amount of residual TfR1,
 343 however, was still high, so that it was not possible
 344 to differentiate between Tf binding to TfR1 and Tf
 345 binding to TfR2 α because of the low affinity of
 346 TfR2 α for Tf.¹⁴ We therefore turned to TfR1-
 347 deficient CHO cells for expressing TfR2 α .^{13,21}

348 In the present study, the affinity of TfR2 α for Tf
 349 was measured in living cells for the first time
 350 using [¹²⁵I]Tf to display the binding isotherm at
 351 4 °C. The K_a for the binding of Tf by TfR2 α was
 352 calculated to be 5.6×10^6 M⁻¹, about 35-fold less
 353 than that for the binding of Tf by TfR1 (2×10^8 M⁻¹
 354 to 3×10^8 M⁻¹ in HuH-7 cells). The lower affinity
 355 of TfR2 α in transfected CHO cells is in accordance
 356 with a previous report based on a qualitative
 357 study by flow cytometry.¹⁴ Quantification by
 358 surface plasmon resonance using a recombinant
 359 soluble extracellular portion of the receptor gave a
 360 binding constant of 37×10^6 M⁻¹, consistent with
 361 the present result, considering the difference in
 362 methodology.²² The deduced amino acid sequence
 363 of the extracellular domain of TfR2 α protein is 45%
 364 identical and 66% similar to that of TfR1. TfR2 α
 365 also possesses the RGD triad (amino acids 678–
 366 680),¹³ which is thought to be critical for binding
 367 Tf to TfR1.²³ The lower affinity of TfR2 α for Tf is
 368 now, therefore, not explainable.

369 Although the affinity of TfR2 α for Tf is much
 370 less than that of TfR1, the concentration of iron-
 371 bearing Tf in the circulation (about 3×10^{-5} M) is
 372 sufficient to saturate TfR2 α . TfR2 α expression has
 373 been found in cells with active roles in iron
 374 metabolism. Liver, the principal organ of iron
 375 storage, expresses a high level of TfR2 α mRNA, as
 376 do human hepatoma-derived HepG2 cells¹³ and
 377 HuH-7 cells (unpublished observation). K562 cells,
 378 of human myelogenous erythroleukemic origin,
 379 also express TfR2 α mRNA.¹³ Studies of iron
 380 uptake from Tf prior to the discovery of TfR2
 381 did not discriminate between the roles of the two

382 receptors. In future studies, therefore, both recep-
 383 tors require consideration.

384 Binding of Tf to TRVb-TfR2 α and TRVb mock
 385 cells at 4 °C was only 25–50% inhibited by a 100-fold
 386 excess of unlabeled Tf, possibly because of large,
 387 essentially nonsaturable binding. We therefore
 388 resorted to the use of a binding isotherm with
 389 terms for specific (saturable) and nonspecific (non-
 390 saturable) binding to estimate the binding constants
 391 for each type of binding.²⁴ Curve-fitted parameters
 392 for specific binding attributable to transfected TfR2 α
 393 were as follows: K_a , 5.6×10^6 M⁻¹; total number of
 394 sites, 2.8×10^4 cell⁻¹. These contrast with binding
 395 constants near 10^8 M⁻¹ and site numbers in the
 396 range of 2×10^5 cell⁻¹ to 5×10^5 cell⁻¹ for Tf binding
 397 in K562 cells when TfR1 predominates and curve-
 398 fitting to a single class of sites adequately accounts
 399 for binding. An apparent binding constant of
 400 6.5×10^9 M⁻¹ is obtained for the nonsaturable
 401 binding of Tf to TRVb-TfR2 α cells, substantially
 402 weaker than that derived for specific binding. At Tf
 403 concentrations of 10^{-6} M, for example, saturable
 404 binding would account for about 24,000 Tf molec-
 405 ules/cell, while nonsaturable binding would ac-
 406 count for 6500 molecules/cell. Nevertheless, both
 407 TfR2 α -dependent binding and nonspecific binding
 408 contribute to the association of Tf with the cells.

409 In the present study, CHO cells showed a
 410 receptor-independent association with Tf that
 411 should be considered when investigating the func-
 412 tion of TfR2 α expressed in CHO cells. We find a
 413 clear increase in cell-associated Tf after TfR2 α
 414 expression. Since cell-associated Tf represents both
 415 cell-surface-bound Tf and Tf internalized via TfR2 α ,
 416 a proof of Tf internalization mediated by TfR2 α was
 417 required. Cell-associated Tf persisting after acid
 418 washing confirmed the existence of Tf internaliza-
 419 tion via TfR2 α .

420 After internalization, an efflux of Tf, without
 421 substantial degradation, is found. Thus, Tf inter-
 422 nalized by TfR2 α , like Tf internalized by TfR1,
 423 recycles. An important difference between the two
 424 receptors was observed in a pulse-chase study. Less
 425 than 12% of Tf bound to the cell surface of TRVb-
 426 TfR2 α cells is internalized, with most of the Tf
 427 dissociated and released to the medium at 37 °C. In
 428 contrast, approximately 30–50% of membrane-
 429 bound Tf was internalized by human-hepatoblas-
 430 toma-derived HepG2 cells¹² and human-hepatoma-
 431 derived HLF cells.²⁵ The lower affinity of TfR2 α for
 432 Tf may help account for the difference between
 433 previous studies and the present work, since
 434 HepG2 and HLF cells express TfR1, but TRVb-
 435 TfR2 α cells do not. In our pulse-chase study, no
 436 detectable internalization of membrane-bound Tf in
 437 a single cycle was found when the occupancy of
 438 TfR2 α by transferrin was about 75%. In normal
 439 circulation, however, the concentration of iron-
 440 bearing Tf is close to 3×10^{-5} M, so that cell surface
 441 receptors are always saturated with Tf and replen-
 442 ished as Tf is internalized. TfR2 α might therefore
 443 normally function in iron uptake from Tf, but this
 444 has yet to be experimentally confirmed.

Q1

445 Overexpressed Tfr2 α protein was also shown to
 446 mediate iron uptake, although its rate of iron
 447 donation was slow. We estimate, from the difference
 448 between iron uptake by TRVb-Tfr2 α cells and
 449 iron uptake by TRVb mock cells in Fig. 2b, that the
 450 rate of iron uptake was approximately 0.2 atom/
 451 receptor/min when cells were incubated with
 452 8.1×10^{-7} M Tf. For comparison, the rate of iron
 453 uptake via Tfr1 was about 0.5–1 atom/receptor/
 454 min in K562 cells. Thus, Tfr2 α may function in iron
 455 uptake from Tf, albeit with less efficiency than
 456 Tfr1.

457 Because of the sequence similarities between Tfr1
 458 and Tfr2 α , the possibility that the protein mono-
 459 mers combine to form heterodimers was investi-
 460 gated. However, no detectable expression of
 461 heterodimers was found in the present studies.
 462 The possibility that our transfection procedure in
 463 HuH-7 cells yielded two different cell populations
 464 (one expressing Tfr2 α and the other failing to do
 465 so) must be considered, so that expression of
 466 heterodimers was too low for detection. We cannot
 467 exclude the possibility of heterodimer formation
 468 that might be detected by more sensitive methods
 469 or in other cells.

470 AFM was used to characterize the interactions
 471 between Tf and Tfr2 α protein at the single-
 472 molecule level. We found that the unbinding force
 473 needed to detach Tf from Tfr2 α (63 ± 8 pN) was
 474 different from the unbinding force needed to
 475 detach Tf from Tfr1, previously reported as $56 \pm$
 476 7 pN.¹⁵ However, dynamic force measurements
 477 revealed striking differences between Tf-Tfr1 and
 478 Tf-Tfr2 α interactions, which reflected clearly
 479 distinct energy landscapes.¹⁵ While Tf-Tfr1 un-
 480 binding is characterized by two energy barriers,
 481 only one is present for Tf-Tfr2. This obvious
 482 difference might arise from different binding
 483 points for Tf-Tfr1 and Tf-Tfr2 α interactions. In
 484 addition, this possibility provides a structural
 485 interpretation for the energy barriers postulated
 486 here. We speculate that the two barriers of the Tf-
 487 Tfr1 interaction stem from the binding of both
 488 lobes of Tf (C-lobe and N-lobe), whereas the
 489 single barrier of Tf-Tfr2 α interaction originates
 490 from the binding of a single lobe, but we
 491 recognize that this speculation requires further
 492 investigation.

493 In conclusion, the present study shows that
 494 Tfr2 α protein functions in binding Tf and taking
 495 up iron, and that there must be a difference
 496 between Tfr1 and Tfr2 in their interactions with
 497 Tf, as revealed by AFM. Tfr2 α mRNA lacks an
 498 IRE, so that expression is not regulated by
 499 intracellular iron status¹⁸ but possibly by cell
 500 cycle.¹⁴ Furthermore, Tfr2 cannot compensate for
 501 Tfr1 in Tfr1 knockout mice, which lack a
 502 functional Tf cycle and do not survive gestation.²⁶
 503 A nonsense mutation of the human Tfr2 gene
 504 causes a hemochromatosis-like disorder.^{27,28} The
 505 physiological functions of Tfr2 are therefore still
 506 unclear, although it likely contributes to the
 507 regulation of cellular iron status.

Q2

Materials and Methods 508

Cells and cell culture 509

Tfr1-deficient CHO TRVb cells²¹ were grown in F-12
 Nutrients Mixture (Invitrogen, Grand Island, NY) supple-
 mented with 5% heat-inactivated fetal bovine serum
 (Gemini Bio-Products, Woodland, CA), 100 U/ml penicil-
 lin, and 100 μ g/ml streptomycin. All cultures were
 maintained at 37 °C in 5% CO₂.

Tfr2 α expression vector 516

Total RNA was extracted from K562 cells using the
 RNagent Total RNA Isolation System (Promega, Mad-
 ison, WI) following the manufacturer's instructions.
 Complementary DNA was reverse-transcribed from
 1 μ g of RNA using an oligo-dT primer (Promega) and
 MMLV reverse transcriptase (Stratagene, La Jolla, CA),
 and human Tfr2 α cDNA was amplified by hot-start
 PCR. A FLAG sequence was added to the 5'-terminus of
 the cDNA to enable detection of expressed protein by
 anti-FLAG antibodies. The oligonucleotides used as PCR
 primers were 5'-ACCTTAAGGCCACCATGGATTA-
 CAAGGATGACGACGATAAGATGGAGCGGCTTTG-3'
 and 5'-GGTTCGAAGCAATGAGAGGTGGAC-3'. The
 conditions for amplification were as follows: 40 cycles
 of 99 °C for 1 min, 65 °C for 2 min, and 72 °C for 5 min.
 The amplified DNA fragment was digested with AflIII
 and BstBI and then inserted into the bicistronic
 mammalian expression vector pIRESpuo2 (Clontech,
 Palo Alto, CA). The orientation and sequence of the
 inserted Tfr2 α cDNA fragment were confirmed by
 sequencing.

Transfection 538

TRVb cells were grown in 35-mm six-well plates until
 they had reached 70–80% confluence, then they were
 transfected with the Tfr2 α expression vector using
 Lipofectamine Plus (Invitrogen, Carlsbad, CA). Selection
 was performed with 10 μ g/ml puromycin (Clontech) for
 2 weeks, and then the concentration of the antibiotic was
 raised to 30 μ g/ml in order to isolate a clone with high-
 level expression of Tfr2 α . After another 2 weeks, one
 viable colony (TRVb-Tfr2 α) was obtained and then
 subcultured using a cloning cylinder. As mock-trans-
 fected controls, TRVb cells were transfected with the
 pIRESpuo2 vector without a cDNA insert, and one clone
 was isolated after 4 weeks of selection (TRVb mock cells).
 These transfectants were maintained at 30 μ g/ml
 puromycin after isolation. Expression of Tfr2 α mRNA
 was confirmed by reverse transcriptase PCR, and the
 expression of Tfr2 α protein was confirmed by immuno-
 precipitation-Western blot analysis using anti-FLAG
 antibodies (data not shown).

Total protein content 558

The total protein contents of TRVb, TRVb-Tfr2 α , and
 TRVb mock cells were determined with the Bio-Rad
 Protein Assay Kit (Bio-Rad, Hercules, CA) using bovine
 serum albumin (BSA) as standard. Cells were counted
 with a hemocytometer.

561 **Iodination of Tf**

565 Human Tf (Boehringer-Mannheim, Germany) was
566 labeled with ^{125}I (Amersham Pharmacia Biotech, Piscat-
567 away, NJ) by the iodine monochloride method of
568 McFarlane.²⁹ To remove unbound ^{125}I , we passed labeled
569 Tf through a 10-DG desalting column (Bio-Rad) two times.
570 Specific activities were observed in the range of 100–
571 200 cpm/ng Tf, and more than 95% of ^{125}I was protein-
572 bound as determined by precipitation with 20% TCA/4%
573 PTA.

574 **^{59}Fe labeling of Tf**

575 Iron was removed from Tf, and labeling with ^{59}Fe was
576 carried out by previously described methods.³⁰ Specific
577 activities were in the range of 2000–3500 cpm/ng Fe. In
578 some experiments, apotransferrin was labeled with ^{125}I , as
579 described above, and then loaded with ^{59}Fe .

580 **Binding assay**

581 Tf binding assays were performed as previously
582 reported.³¹ Cell numbers were calculated from protein
583 concentrations determined with the Bio-Rad Protein
584 Assay Kit. Each experiment was performed in triplicate.
585 The total number of specific binding sites per cell and the
586 K_d for the binding of Tf to these sites were estimated from
587 nonlinear least-squares curve fitting to a saturable binding
588 isotherm:³²

$$\text{occupied sites} = \frac{\text{total sites} \times K_d[\text{Tf}]}{1 + K_d[\text{Tf}]},$$

589 from which it is also possible to calculate the fraction of
591 sites occupied by Tf at any concentration of free Tf.

592 **Tf and iron uptake**

593 Cells were plated at a density of 1×10^6 cells/well in 35-
594 mm six-well plates 24 h before the experiments. Cells were
595 preincubated with F-12 three times for 10 min at 37 °C,
596 chilled on ice for 30 min, and then incubated at 37 °C with
597 F-12 containing 2% BSA and labeled Tf at indicated
598 concentrations and times. Cells were then washed with
599 ice-cold PBS five times and solubilized by 0.1% Triton X-
600 100 for counting.

601 **Acid washing of cells**

602 To remove cell-surface-receptor-bound Tf, we washed
603 cells with ice-cold PBS five times and then incubated them
604 with ice-cold acid wash buffer [0.025 M citric acid, 0.025 M
605 sodium citrate, 200 μM deferoxamine mesylate, and
606 0.15 M sucrose (pH 4.0)] for 3 min, followed by two 2-
607 min incubations with ice-cold F-12 medium to remove
608 cell-surface-bound apotransferrin. Finally, the cells were
609 washed once more with ice-cold PBS. This method
610 removed approximately 90% of surface-bound Tf in
611 TRVb-TfR2 α cells.

612 **Efflux of Tf from cells**

613 Cells, plated at a density of 1×10^6 cells/well in 35-mm
614 six-well plates 24 h before the experiments, were

preincubated with F-12 three times for 10 min at 37 °C,
615 chilled on ice for 30 min, and then incubated with F-12
616 containing 2% BSA and 3.5×10^{-7} M ^{125}I -labeled Tf for
617 60 min at 37 °C. After acid washing, fresh F-12 medium
618 was added, and cells were again incubated at 37 °C. At
619 indicated times, F-12 media were collected, and cells were
620 washed with ice-cold PBS and solubilized by 0.1% Triton
621 X-100. Media and cell lysates were then taken for γ -
622 counting. After counting, media were incubated with 10%
623 TCA/2% PTA for 30 min on ice, and then centrifuged at
624 14,000 rpm in an Eppendorf centrifuge for 20 min. Tf
625 degradations were calculated from the radioactivities of
626 supernatants and precipitates. 627

628 **Pulse-chase study**

629 TRVb-TfR2 α cells were incubated with 5.1×10^{-7} M
630 [^{125}I]Tf, as previously described, for 1 h at 4 °C. Cells were
631 then washed with ice-cold PBS five times. Fresh F-12
632 medium was added, and cells were incubated at 37 °C. At
633 indicated times, cells were chilled on ice, and media were
634 immediately collected. Cells were again washed with ice-
635 cold PBS, and media were collected. Cells were then acid
636 washed to quantify surface-bound Tf and solubilized for
637 the measurement of intracellular Tf.

638 **Immunoprecipitation–Western blot analysis**

639 Human-hepatoma-derived HuH-7 cells were transiently
640 transfected with the TfR2 α expression vector, as
641 described above. At 48 h after transfection, 5×10^6 cells
642 were washed with PBS five times and collected with a cell
643 scraper. Harvested cells were dissolved in 40 μl of the cell
644 extraction buffer of the Mammalian Cell Extraction Kit
645 (BioVision Incorporated, Mountain View, CA) following
646 the manufacturer's instructions for Western blot analysis
647 without immunoprecipitation, or in 1.5 ml of lysis buffer
648 [10 mM Tris-HCl, 150 mM NaCl, 1% Nonidet P-40, 1 mM
649 ethylenediaminetetraacetic acid, and 1 mM PMSF con-
650 taining 1:2000 Protease Inhibitor Cocktail (Boehringer-
651 Mannheim; pH 7.4)] for immunoprecipitation–Western
652 blot analysis. Freezing and thawing were performed
653 three times, following which samples were centrifuged at
654 2700g. Protein G Sepharose (Amersham Biosciences,
655 Uppsala, Sweden) was added, and preparations were
656 incubated at 4 °C for 8 h, then centrifuged at 1500g for
657 5 min. Supernatants were then collected for incubation
658 with anti-FLAG M2 antibody (Sigma), which recognizes
659 FLAG at any location in the target protein, or with anti-
660 TfR1 antibody (Zymed Laboratory, South San Francisco,
661 CA) for 8 h at 4 °C. Protein G Sepharose was added, and
662 incubation continued for an additional 8 h at 4 °C.
663 Samples were centrifuged at 1500g for 5 min, and pellets
664 were washed with PBS five times. Concentrated dye
665 buffer was added, and final concentrations were adjusted
666 to 10 mM Tris-HCl, 1 mM ethylenediaminetetraacetic
667 acid, 2.5% SDS, 5% β -mercaptoethanol, and 0.01%
668 bromophenol blue (pH 8.0). Samples were then immersed
669 in boiling water for 5 min and centrifuged at 20,000g for
670 5 min to remove precipitated material. Electrophoresis
671 using a 12% gradient polyacrylamide gel and transfer to a
672 nitrocellulose membrane were carried out. The transfer
673 membrane was incubated with anti-TfR2 antibody (9F8
674 1C11) (Santa Cruz Biotechnology, Inc., Santa Cruz, CA)
675 diluted 1:200 or with anti-TfR1 antibody diluted 1:1000,
676 and then with horseradish-peroxidase-conjugated goat
677 anti-mouse IgG antibody (R&D Systems, Minneapolis,

678 MN) diluted 1:2000. SuperSignal West Pico Chemilumi-
679 nescent Substrate (Thermo Scientific, Rockford, IL) was
680 used as development substrate.

681 Atomic force microscopy

682 The details of the methods for investigation using AFM
683 were previously reported.¹⁵ In brief, the probe of AFM is a
684 sharp tip placed at the end of a soft cantilever. A
685 piezoelectric scanner allows the precise positioning of
686 the tip relative to the sample. A laser beam reflected on the
687 cantilever backside and detected by photodiodes is used
688 to measure cantilever deflection. This signal is either used
689 as feedback to control the scanner (imaging mode) or
690 measured and converted into force (force spectroscopy
691 mode). Since the cantilever is mounted under the scanner,
692 the optical path is free, and AFM can be coupled to an
693 optical microscope. Tf was linked to the AFM tip by a
694 three-step functionalizing protocol. First, SiN tips are
695 aminosilanized by exposure to APTEs vapors. Second, a
696 heterobifunctional polyethylene glycol linker is anchored
697 to amino-group-bearing tips through its NHS end. Third,
698 Tf is attached to the polyethylene glycol linker free end via
699 a maleimide–cysteine bond.

700 Measuring the interaction force between Tf and 701 TfR2 α by AFM

702 HLF cells (human hepatoma) were cotransfected with
703 TfR2 α and GFP for identification, as previously
704 described.³³ A Tf-coated tip was brought in contact with
705 the cell surface, allowing the proteins to bind. The tip was
706 then retracted, resulting first in protein stretching, then
707 unbinding. Cantilever deflections during one cycle are
708 recorded in a force curve. A binding–unbinding event
709 between Tf and TfR2 α is represented by a sawtooth
710 pattern on the curve. It allows calculation of the force
711 necessary to unbind the two proteins, using the cantilever
712 spring constant (Hooke's law). The mean unbinding force
713 is obtained by fitting a Gaussian curve to the force
714 histogram. The error on the mean unbinding force is
715 calculated by adding the standard deviation of the sample
716 and the error resulting from the spring constant calibration
717 (10%). Moreover, the unbinding force is related to the
718 pulling rate by:

$$F^* = \frac{k_B T}{x} \ln\left(\frac{x}{k_0 k_B T}\right) + \frac{k_B T}{x} \ln(r_f)$$

719 where F^* is the most probable unbinding force, k_0 is the
720 dissociation rate constant, r_f is the loading rate applied, x
721 is the width of the energy barrier along the direction of the
722 applied force, k_B is the Boltzmann constant, and T is
723 temperature.
724

725 Acknowledgements

726 We are grateful to Dr. Timothy E. McGraw for
727 providing the CHO TRVb cells used in this study.
728 This work was supported, in part, by grants 1
729 PO1 DK55495 and 5 RO1 DK015056 from the
730 National Institutes of Health, US Public Health
731 Service, USA.

Supplementary Data

Supplementary data associated with this article
can be found, in the online version, at doi:10.1016/
j.jmb.2010.01.026

References

1. Kühn, L. C., McClelland, A. & Ruddle, F. H. (1984). Gene transfer, expression, and molecular cloning of the human transferrin receptor gene. *Cell*, **37**, 95–103.
2. Feder, J. N., Gnirke, A., Thomas, W., Tsuchihashi, Z., Ruddy, D. A., Basava, A. *et al.* (1996). A novel MHC class I-like gene is mutated in patients with hereditary haemochromatosis. *Nat. Genet.* **13**, 399–408.
3. Feder, J. N., Penny, D. M., Irrinki, A., Lee, V. K., Lebrón, J. A., Watson, N. *et al.* (1998). The hemochromatosis gene product complexes with the transferrin receptor and lowers its affinity for ligand binding. *Proc. Natl Acad. Sci. USA*, **95**, 1472–1477.
4. Lebrón, J. A., Bennett, M. J., Vaughn, D. E., Chirino, A. J., Snow, P. M., Mitter, G. A. *et al.* (1998). Crystal structure of the hemochromatosis protein HFE and characterization of its interaction with transferrin receptor. *Cell*, **93**, 111–123.
5. Waheed, A., Parkkila, S., Zhou, X. Y., Tomatsu, S., Tsuchihashi, Z., Feder, J. N. *et al.* (1997). Hereditary hemochromatosis: effects of C282Y and H63D mutations on association with β 2-microglobulin, intracellular processing, and cell surface expression of the HFE protein in COS-7 cells. *Proc. Natl Acad. Sci. USA*, **94**, 12384–12389.
6. Roy, C. N., Penny, D. M., Feder, J. N. & Enns, C. A. (1999). The hereditary hemochromatosis protein, HFE, specifically regulates transferrin-mediated iron uptake in HeLa cells. *J. Biol. Chem.* **274**, 9022–9028.
7. Gunshin, H., Mackenzie, B., Berger, U. V., Gunshin, Y., Romero, M. F., Boron, W. F. *et al.* (1997). Cloning and characterization of a mammalian proton-coupled metal-ion transporter. *Nature*, **388**, 482–488.
8. Fleming, M. D., Romano, M. A., Su, M. A., Garrick, L. M., Garrick, M. D. & Andrews, N. C. (1998). Nramp2 is mutated in the anemic Belgrade (b) rat: evidence of a role for Nramp2 in endosomal iron transport. *Proc. Natl Acad. Sci. USA*, **95**, 1148–1153.
9. Gruenheid, S., Canonne-Hergaux, F., Gauthier, S., Hackam, D. J., Grinstein, S. & Gros, P. (1999). The iron transport protein NRAMP2 is an integral membrane glycoprotein that colocalizes with transferrin in recycling endosomes. *J. Exp. Med.* **189**, 831–841.
10. Klausner, R. D., Van Renswoude, J., Ashwell, G., Kempf, C., Schechter, A. N., Dean, A. & Bridges, K. R. (1983). Receptor-mediated endocytosis of transferrin in K562 cells. *J. Biol. Chem.* **258**, 4715–4724.
11. Dautry-Varsat, A., Ciechanover, A. & Lodish, H. F. (1983). pH and the recycling of transferrin during receptor-mediated endocytosis. *Proc. Natl Acad. Sci. USA*, **80**, 2258–2262.
12. Ciechanover, A., Schwartz, A. L., Dautry-Varsat, A. & Lodish, H. F. (1983). Kinetics of internalization and recycling of transferrin and the transferrin receptor in a human hepatoma cell line. Effect of lysosomotropic agents. *J. Biol. Chem.* **258**, 9681–9689.
13. Kawabata, H., Yang, S., Hiram, T., Vuong, P. T., Kawano, S., Gombart, A. F. & Koefler, H. P. (1999). Molecular cloning of transferrin receptor 2. A new member of the transferrin receptor-like family. *J. Biol. Chem.* **274**, 20826–20832.

- 797 14. Kawabata, H., Germain, R. S., Vuong, P. T., Nakamaki,
798 T., Said, J. W. & Koeffler, H. P. (2000). Transferrin
799 receptor 2- α supports cell growth both in iron-
800 chelated cultured cells and *in vivo*. *J. Biol. Chem.* **275**,
801 16618–16625.
- 802 15. Yersin, A., Osada, T. & Ikai, A. (2008). Exploring
803 transferrin–receptor interactions at the single-mole-
804 cule level. *Biophys. J.* **94**, 230–240.
- 805 16. Chan, R. Y. Y., Ponka, P. & Schulman, H. M. (1992).
806 Transferrin-receptor-independent but iron-dependent
807 proliferation of variant Chinese hamster ovary cells.
808 *Exp. Cell Res.* **202**, 326–336.
- 809 17. Lawrence, C. M., Ray, S., Babyonyshev, M., Galluser,
810 R., Borhani, D. W. & Harrison, S. C. (1999). Crystal
811 structure of the ectodomain of human transferrin
812 receptor. *Science*, **286**, 779–782.
- 813 18. Fleming, R. E., Migas, M. C., Holden, C. C., Waheed,
814 A., Britton, R. S., Tomatsu, S. *et al.* (2000). Transferrin
815 receptor 2: continued expression in mouse liver in the
816 face of iron overload and in hereditary hemochroma-
817 tosis. *Proc. Natl Acad. Sci. USA*, **97**, 2214–2219.
- 818 19. Trinder, D., Zak, O. & Aisen, P. (1996). Transferrin
819 receptor-independent uptake of diferric transferrin by
820 human hepatoma cells with antisense inhibition of
821 receptor expression. *Hepatology*, **23**, 1512–1520.
- 822 20. Sasaki, K., Zak, O. & Aisen, P. (1993). Antisense
823 suppression of transferrin receptor gene expression in
824 a human hepatoma cell (HuH-7) line. *Am. J. Hematol.*
825 **42**, 74–80.
- 826 21. McGraw, T. E., Greenfield, L. & Maxfield, F. R. (1987).
827 Functional expression of the human transferrin receptor
828 cDNA in Chinese hamster ovary cells deficient in
829 endogenous transferrin receptor. *J. Cell Biol.* **105**,
830 207–214.
- 831 22. West, A. P., Jr., Bennett, M. J., Sellers, V. M., Andrews,
832 N. C., Enns, C. A. & Bjorkman, P. J. (2000).
833 Comparison of the interactions of transferrin receptor
834 and transferrin receptor 2 with transferrin and the
835 hereditary hemochromatosis protein HFE. *J. Biol.*
836 *Chem.* **275**, 38135–38138.
- 837 23. Dubljevic, V., Sali, A. & Goding, J. W. (1999). A
838 conserved RGD (Arg-Gly-Asp) motif in the transferrin
839 receptor is required for binding to transferrin. *Biochem.*
840 *J.* **341**, 11–14.
- 841 24. Osterloh, K. & Aisen, P. (1989). Pathways in the
842 binding and uptake of ferritin by hepatocytes. *Biochim.*
843 *Biophys. Acta*, **1011**, 40–45.
- 844 25. Ikuta, K., Fujimoto, Y., Suzuki, Y., Tanaka, K., Saito,
845 H., Ohhira, M. *et al.* (2000). Overexpression of
846 hemochromatosis protein, HFE, alters transferrin
847 recycling process in human hepatoma cells. *Biochim.*
848 *Biophys. Acta*, **1496**, 221–231.
- 849 26. Levy, J. E., Jin, O., Fujiwara, Y., Kuo, F. & Andrews,
850 N. C. (1999). Transferrin receptor is necessary for
851 development of erythrocytes and the nervous system.
852 *Nat. Genet.* **21**, 396–399.
- 853 27. Camaschella, C., Roetto, A., Cali, A., De Gobbi, M.,
854 Garozzo, G., Carella, M. *et al.* (2000). The gene TFR2 is
855 mutated in a new type of haemochromatosis mapping
856 to 7q22. *Nat. Genet.* **25**, 14–15.
- 857 28. Roetto, A., Totaro, A., Piperno, A., Piga, A., Longo, F.,
858 Garozzo, G. *et al.* (2001). New mutations inactivating
859 transferrin receptor 2 in hemochromatosis type 3.
860 *Blood*, **97**, 2555–2560.
- 861 29. McFarlane, A. S. (1963). *In vivo* behavior of I-
862 fibrinogen. *J. Clin. Invest.* **42**, 346–361.
- 863 30. Young, S. P. & Aisen, P. (1980). The interaction of
864 transferrin with isolated hepatocytes. *Biochim. Biophys.*
865 *Acta*, **633**, 145–153.
- 866 31. Zak, O., Trinder, D. & Aisen, P. (1994). Primary
867 receptor-recognition site of human transferrin is in the
868 C-terminal lobe. *J. Biol. Chem.* **269**, 7110–7114.
- 869 32. Klotz, I. M. & Hunston, D. L. (1971). Properties of
870 graphical representations of multiple classes of
871 binding sites. *Biochemistry*, **10**, 3065–3069.
- 872 33. Yersin, A., Hirling, H., Kasas, S., Roduit, C., Kulan-
873 gara, K., Dietler, G. *et al.* (2007). Elastic properties of
874 the cell surface and trafficking of single AMPA
875 receptors in living hippocampal neurons. *Biophys. J.*
876 **92**, 4482–4489.

RESEARCH ARTICLE

Heterogeneous expressions of hepcidin isoforms in hepatoma-derived cells detected using simultaneous LC-MS/MS

Takaaki Hosoki¹, Katsuya Ikuta¹, Yasushi Shimonaka², Yusuke Sasaki², Hideyuki Yasuno², Kazuya Sato¹, Takaaki Ohtake¹, Katsunori Sasaki³, Yoshihiro Torimoto⁴, Keiji Saito² and Yutaka Kohgo¹

¹Division of Gastroenterology and Hematology/Oncology, Department of Medicine, Asahikawa Medical College, Asahikawa, Japan

²Kamakura Research Labs, Chugai Pharmaceutical Co., Ltd., Kamakura, Japan

³Department of Gastrointestinal Immunology and Regenerative Medicine, Asahikawa Medical College, Asahikawa, Japan

⁴Oncology Center, Asahikawa Medical College Hospital, Asahikawa, Japan

Hepcidin, a key regulator of iron homeostasis, is known to have three isoforms: hepcidin-20, -22, and -25. Hepcidin-25 is thought to be the major isoform and the only one known to be involved in iron metabolism; the physiological roles of other isoforms are poorly understood. Because of its involvement in the pathophysiology of hereditary hemochromatosis and the anemia of chronic disease, the regulatory mechanisms of hepcidin expression have been extensively investigated, but most studies have been performed only at the transcriptional level. Difficulty in detecting hepcidin has impeded *in vitro* research. In the present study, we developed a novel method for simultaneous quantification of hepcidin-20, -22, and -25 in the media from hepatoma-derived cell lines. Using this method, we determined the expression patterns of hepcidin isoforms and the patterns of responses to various stimuli in human hepatoma-derived cultured cells. We found substantial differences among cell lines. In conclusion, a novel method for simultaneous quantification of hepcidin isoforms is presented. Heterogeneous expressions of hepcidin isoforms in human hepatoma-derived cells were revealed by this method. We believe our method will facilitate quantitative investigation of the role hepcidin plays in iron homeostasis.

Received: June 3, 2009
Revised: July 13, 2009
Accepted: July 17, 2009

Keywords:

Hepatocyte / Hepcidin antimicrobial peptide / Iron metabolism / LC-MS/MS

Correspondence: Dr. Katsuya Ikuta, Division of Gastroenterology and Hematology/Oncology, Department of Medicine, Asahikawa Medical College, 2-1-1-1 Midorigaoka-Higashi, Asahikawa, Hokkaido 078-8510, Japan

E-mail: ikuta@asahikawa-med.ac.jp

Fax: +81-166-68-2469

Abbreviations: Ct, threshold cycle; DFO, desferrioxamine; EMEM, Eagle's minimum essential medium; FAC, ferric ammonium citrate; HAMP, hepcidin antimicrobial peptide; holo-Tf, holo-transferrin; IL-1 β , interleukin-1 β ; IL-6, interleukin-6; LPS, lipopolysaccharide; QC, quality control; qRT-PCR, quantitative RT-PCR; SRM, selected reaction monitoring

1 Introduction

Hepcidin is a small peptide mainly produced by the liver, and it is thought to be the key regulator in iron homeostasis [1, 2]. Hepcidin binds to ferroportin, the mammalian iron exporter expressed on the basolateral side of enterocytes and on the cell surface of macrophages, thereby causing the internalization and degradation of ferroportin [3]. Hepcidin thus inhibits iron uptake from the gastrointestinal tract and iron release from reticuloendothelial cells, so that iron balance of the body is negatively regulated by hepcidin [1, 2]. Increased

hepcidin expression therefore leads to iron deficiency while decreased hepcidin expression causes iron overload.

Hepcidin is involved in several diseases, such as hereditary hemochromatosis and the anemia of chronic disease. In hereditary hemochromatosis, various mutations occur in genes such as *HFE*, *hemojuvelin*, and *transferrin receptor 2*, leading to decreased hepcidin expression despite generalized iron overload [4–6]. In contrast, in anemia of chronic disease, inflammatory cytokines such as interleukin-6 (IL-6) [7, 8] and interleukin-1 β (IL-1 β) [9, 10] upregulate hepcidin expression and thus cause iron-deficiency anemia.

Recently, the regulation of hepcidin expression has been intensively studied to reveal pathophysiological mechanisms involved in diseases in which iron metabolism is altered. For instance, the cytokine IL-6 increases hepcidin synthesis utilizing signal transducers and activators of transcription-3 during inflammation such as caused by systemic infections [11]. The bone morphogenic proteins (BMPs) are members of the transforming growth factor β superfamily, and BMPs have been proposed to be involved in hemojuvelin-mediated regulation of hepcidin synthesis [12]. However, almost all research on the regulation of hepcidin expression has been restricted to studying changes in transcription of the *hepcidin antimicrobial peptide (HAMP)* gene utilizing RT-PCR under various conditions.

Hepcidin is produced mainly by hepatocytes expressing the *HAMP* gene located on chromosome 19. The transcript of this gene is believed to produce a prepropeptide of 84 amino acids, and then the peptide is digested by furin, the intercellular convertase, and finally the mature form of hepcidin appears in the peripheral blood [13]. However, there is little information about the ratios of serum prohepcidin to mature hepcidin, and the secreted fraction of hepcidin to hepcidin retained intracellularly. In addition, kidney cells have been shown to produce hepcidin independently of the liver [14]. Therefore, there is no proof that *HAMP* transcript levels of the liver reflect total body secretion of hepcidin-25. Consequently, it is desirable that hepcidin be determined from peptide levels in the serum, in addition to transcriptional levels of the liver and other organs.

Three isoforms of mature hepcidin are known. A 25-amino acid peptide (hepcidin-25) is thought to be the major isoform [15], but other forms of hepcidin such as hepcidin-20 and -22 have been detected in human urine [16]. Only hepcidin-25 has been shown to cause the internalization and degradation of ferroportin. However, the possibility arises that hepcidin-20 and -22 have different physiological roles in homeostasis and their expressions are regulated independently from hepcidin-25. It is therefore desirable that hepcidin-20, -22, and -25 be separately quantified.

The first method for measuring prohepcidin, using ELISA, was reported by Kulaksiz *et al.* [17]. That method has been applied for the analysis of hepcidin expression levels, but there is little information about how and whether hepatocytes secrete prohepcidin into the blood [17]. Several groups have developed antibodies to detect and measure hepcidin, but difficulties for differentiation of hepcidin-20,

-22, and -25 [18] persist. MS-based modalities have been used in recent years for measuring hepcidin. For instance, SELDI-TOF-MS has been used for semi-quantification [19, 20], and LC-MS/MS has been employed for quantification of hepcidin [21, 22]. These methods are applicable to assaying clinical samples such as blood and urine. Most recently, Ganz *et al.* reported development of an ELISA system for quantification of human serum hepcidin that is expected to be a powerful tool for clinical samples [23].

Experiments *in vitro* would also be valuable for investigating the complex molecular mechanisms regulating hepcidin expression. Detection and quantification of hepcidin in cell culture media has been difficult, probably due to its low concentration.

We therefore aimed to develop a sensitive new method for measuring hepcidin that can simultaneously measure hepcidin-20, -22, and -25 secreted in culture media by hepatoma-derived cells. We now report such a method, improving the MS-based modality that we previously reported [22]. We also determined the characteristics of hepcidin expression of various hepatoma cell lines using the new method, which can be applied to analyzing differences among hepatoma cells of varying lineage.

2 Materials and methods

2.1 Hepcidin standards

Human hepcidin-25 was obtained from the Peptide Institute (Osaka, Japan). Hepcidin-20, -22, and [$^{13}\text{C}_{18}$, $^{15}\text{N}_3$]-hepcidin-25 were synthesized at the Peptide Institute.

2.2 Chemicals

BMP2 and holo-transferrin (holo-Tf) were purchased from R & D Systems; IL-6 was obtained from Wako Pure Chemical Industries, Osaka, Japan. FBS was purchased from Japan Bioserum; Eagle's minimum essential medium (EMEM), DMEM, RPMI-1640 medium, L-glutamine, and sodium bicarbonate were purchased from Sigma-Aldrich. Penicillin-streptomycin solution were bought from Invitrogen. IL-1 β was purchased from Wako Pure Chemical Industries; desferrioxamine (DFO), ferric ammonium citrate (FAC), lipopolysaccharide (LPS), and cobalt chloride were obtained from Sigma-Aldrich. Decanoyl-RVKR-CMK (furin inhibitor I) was purchased from Calbiochem (Darmstadt, Germany). All other chemicals and solvents were of analytical reagent grade.

2.3 Cell cultures

Human hepatoma-derived cell lines used in this study were HepG2, HuH-1, HuH-2, HuH-4, HuH-6, HuH-7, WRL68, HB611, Hep3B, HLE, HLF, SK-HEP-1, and human primary

hepatocytes derived from normal liver (Applied Cell Biology Research Institute).

HuH-4, HB611, and HuH-6 cells were incubated with RPMI1640; HuH-7 cells were incubated with DMEM. Other cells were incubated with EMEM. Those medium were supplemented with 10% FBS, 100 U/mL penicillin, and 100 µg/mL streptomycin. All cells were cultured at 37°C in a humidified incubator with 5% CO₂. In some experiments, FBS-free UltraCulture medium (Lonza, MD, USA) supplemented with 2 mM L-glutamine was used. HepG2 cells could survive in this serum-free medium for more than 3 days.

Cells at the density of 1 × 10⁶ cells/mL were grown in 6-well plates for 24 h to almost 80% conuency in 2 mL of culture medium. Medium in each well was replaced by 2 mL of culture medium containing various stimulants and then incubated for 48 h. All cell lines were maintained with 20 ng/mL IL-6 or 30 µM holo-Tf or no additives for control cells.

After 48 h, culture media were collected and analyzed for hepcidin-20, -22, and -25 concentrations as follows: 50 µL of 4% trichloroacetic acid solution containing 200 ng/mL [¹³C₁₈, ¹⁵N₃]-hepcidin-25 as internal standard was added to an equal amount of each culture medium, mixed vigorously, and centrifuged. A 20-µL aliquot of the resulting supernatant was analyzed quantitatively by LC-MS/MS. Cells were lysed with 0.1% Triton X-100 for protein assay, or by SepazolTM (Nacarai Tesque, Japan) for RT-PCR studies.

HepG2 cells were also treated with various reagents instead of IL-6 or holo-Tf, such as 200 pg/mL IL-1β, 100 µM DFO, 100 µM FAC, 1 µg/mL LPS, 50 µM CoCl₂, or 50 µM furin inhibitor I. After 48 h, culture media were collected for quantification of hepcidin isoforms, and cells were lysed for measuring protein concentrations.

Each treatment was performed in triplicate, and data presented as mean and SD.

2.4 LC/ESI-MS/MS analysis

LC/ESI-MS/MS was performed using an API4000QTRAP (Applied Biosystems, Foster City, CA, USA) equipped with a UPLC ACQUITYTM systems (Waters). The turboionspray was operated in the positive ion mode at 5500 V for the ion spray voltage. Analytical chromatography of human hepcidin-20, -22, and -25 was accomplished on a PLRP-S column (5 µm, 300 Å, 150 mm × 2.0 mm id; Polymer Laboratories, Shropshire, UK). Instrument control and data processing were with AnalystTM software version 1.4 (Applied Biosystems).

2.5 Quantitative analysis of human hepcidin-20, -22, and -25

Selected reaction monitoring (SRM) transitions were as follows: human hepcidin-20, *m/z* 548.85 → 119.80; human hepcidin-22, *m/z* 610.14 → 119.80; human hepcidin-25, *m/z*

558.80 → 120.07; [¹³C₁₈, ¹⁵N₃]-human hepcidin-25, *m/z* 563.11 → 109.60. The declustering potential for human hepcidin-20, -22, -25, and [¹³C₁₈, ¹⁵N₃]-human hepcidin-25 were 50, 50, 81, and 81 V, respectively. The turboionspray source was maintained at a temperature of 600°C. Collision energies for human hepcidin-20, -22, -25, and [¹³C₁₈, ¹⁵N₃]-human hepcidin-25 were 52, 59, 73 and 75 V, respectively. The collisional activation dissociation gas was set at 4. Mobile phase A was 0.1% aqueous formic acid, and mobile phase B was 0.1% formic acid in ACN. Gradient conditions were as follows: B 20% (0 min, 0.3 mL/min) → 20% (2.01 min, 0.3 mL/min) → 25% (5.00 min, 0.3 mL/min) → 25% (10.00 min, 0.3 mL/min) → 90% (10.01 min, 0.3 mL/min) → 90% (12.00 min, 0.3 mL/min) → 20% (12.01 min, 0.3 mL/min) → 20% (14.00 min, 0.3 mL/min).

Analysis of hepcidin-25 in the BMP2-stimulated HepG2 culture medium was performed on the 6520 quadrupole-TOF/MS (Agilent Technologies).

2.6 RNA isolation and quantitative RT-PCR

Total RNA was isolated and quantitative RT-PCR (qRT-PCR) was performed in a reaction mix containing TaqMan Universal PCR Master Mix No AmpErase UNG (Applied Biosystems), specific human *HAMP* primers, and probe (pre-validated Taqman gene expression assay, Applied Biosystems), and 100 ng of cDNA. All reactions were multiplexed with the housekeeping gene 18S, provided as a pre-optimized control probe (Applied Biosystems) enabling data to be expressed as delta threshold cycle (ΔCt) values (where ΔCt = Ct of 18s subtracted from Ct of gene of interest). Reactions were as follows: 50°C for 2 min, 95°C for 10 min; then 60 cycles of 95°C for 15 s and 60°C for 1 min. All measurements were performed in triplicate, and relative *HAMP* mRNA expression was expressed as fold expression over the average of *HAMP* mRNA expression corresponding to the HepG2 cells.

2.7 Cellular protein assay

Cell were lysed with 0.1% Triton-X and total protein concentrations were determined using the Bradford reagent (BioRad, Hercules, CA, USA), following the manufacturer's instructions.

3 Results

3.1 Establishment of quantitative measurement of hepcidin isoforms

To improve further the method for quantifying small peptides by LC-MS/MS, we developed a quantitative and simultaneous method for hepcidin-20, -22, and -25 in

biological fluids. Upon optimization of SRM conditions, the most intense precursor ions were selected in each mass spectrum to detect hepcidin isoforms. Product ions were selected to maximize sensitivity and selectivity. Using EMEM supplemented with 10% FBS as matrix, various concentrations of synthetic hepcidin isoforms were spiked, and analyzed by LC-MS/MS. Isoform peaks were not interfered with by a blank matrix, indicating the method has good selectivity.

Our method was validated by specificity, linearity, lower limit of quantification, intra-assay precision, and accuracy. Calibration curves were constructed over the range 2–1000 ng/mL in the above matrix. Five replicates of 2, 5, 50, 500, and 1000 ng/mL of each isoform quality control (QC) samples were prepared and analyzed by LC-MS/MS.

There was no interference peak at retention time of each isoform, confirming good specificity (Fig. 1A). Linearity of the calibration curves by weighted ($1/x^2$) linear regression was excellent (correlation coefficient: $r = 0.9974$ for hepcidin-20, $r = 0.9937$ for hepcidin-22, $r = 0.9950$ for hepcidin-25; Fig. 1B). Accuracies of the back-corrected concentrations were within 87.4–109% for hepcidin-20, 80.1–110% for hepcidin-22, and 80.5–109% for hepcidin-25. The lower limits of quantification for each hepcidin isoform was 2 ng/mL. Coefficients of variance in intra-assay QC samples were 1.2–8.6% for hepcidin-20, 3.1–5.7% for hepcidin-22, and 1.5–7.0% for hepcidin-25. Accuracies for QC samples were 99.7–122.1% for hepcidin-20, 102.6–132.5% for hepcidin-22,

and 99.1–141.2% for hepcidin-25. These results indicate that the method is adequate for quantifying hepcidin isoforms in culture media.

3.2 Detection of hepcidin isoforms in HepG2 media

In the SRM chromatogram of HepG2 medium analyzed by LC-MS/MS, peaks corresponding to the retention time of synthetic hepcidin-22 and -25, but not hepcidin-20, were detected. Peaks corresponding to hepcidin-22 and -25 were also detected and up-regulated in 100 ng/mL BMP2 stimulated HepG2 medium (Fig. 2A). No peaks corresponding to hepcidin-20 were founded in the chromatogram of HepG2 media at any tested conditions.

We tried to identify the component of the corresponding peak for hepcidin-25 in HepG2 medium. For that purpose, BMP2 medium was prepared because it contained a relatively high concentration of putative hepcidin-25, (65.9 ng/mL). Synthetic hepcidin-25 and BMP2 medium were analyzed by quadrupole-TOF/MS. The major precursor ions of synthetic hepcidin-25 ranged from $m/z = 558.4$ – 559.0 . At the same retention time, precursor ions from BMP2 medium showed a similar distribution (Fig. 2B). Mass spectra of product ions were also similar. Several major common product ions were observed (Fig. 2C). Overall, synthetic hepcidin-25 and HepG2-derived peak components are similar in retention time and mass spectra of the

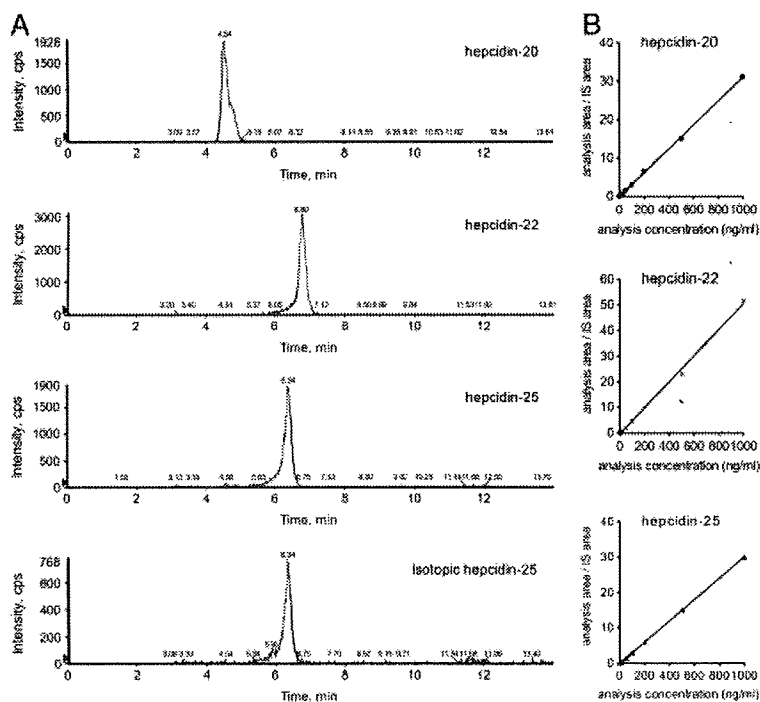


Figure 1. (A) Representative LC-MS/MS chromatograms of hepcidin-20, -22, -25, and blank isotopic hepcidin-25 sample. (B) The calibration curves of hepcidin-20, -22, and -25 in the culture medium are linear in the range of 2–1000 ng/mL. The correlation coefficients of calibration curves are as follows: hepcidin-20, $r = 0.9974$; hepcidin-22, $r = 0.9937$; hepcidin-25, $r = 0.9950$.

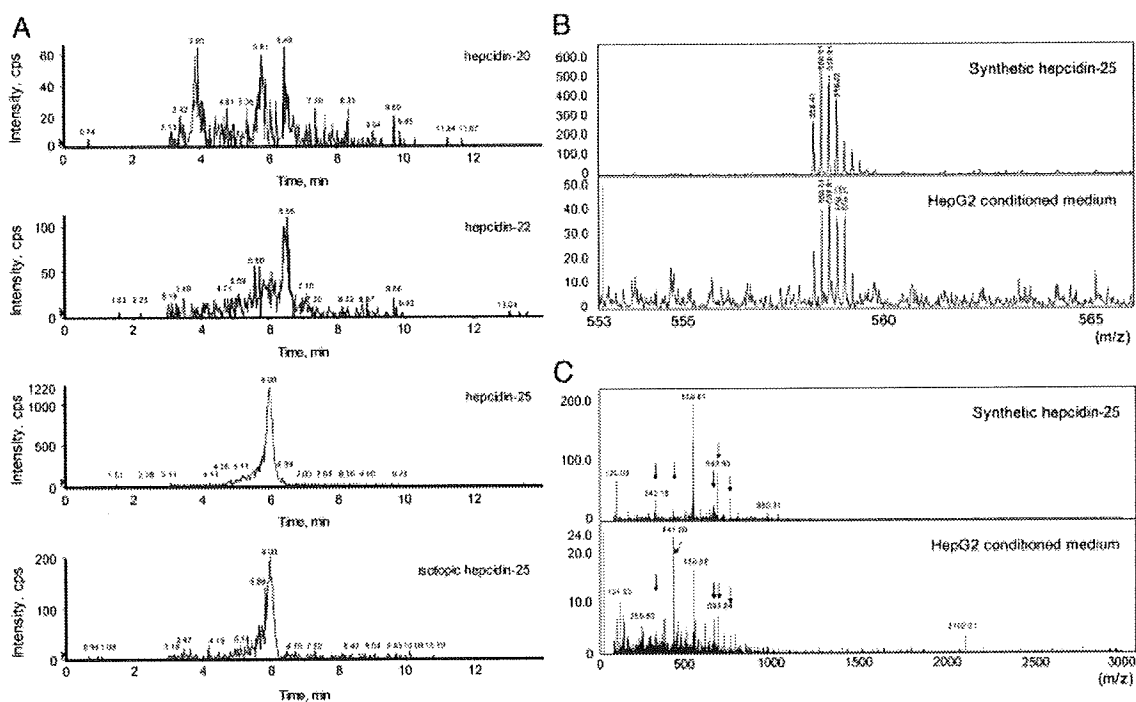


Figure 2. (A) Detection of hepcidin isoforms in BMP2-stimulated HepG2 medium. (B) MS spectra of synthetic hepcidin-25 and derived peak from BMP2-stimulated HepG2 medium showing similar patterns. (C) MS/MS spectra of synthetic hepcidin-25 and derived peak from BMP2-stimulated HepG2 medium showing similar patterns. Arrows show common fragments.

precursor ions and product ions, verifying that the peak detected in the culture medium represents hepcidin-25.

3.3 HAMP gene expressions in hepatoma-derived cell lines

We aimed at first to determine qualitatively whether cell lines derived from hepatocellular carcinomas express the *HAMP* gene as assayed by RT-PCR. Expression levels of *HAMP* mRNA differed among cell lines (Fig. 3A). HepG2, HuH-1, and HuH-7 cells showed relatively high *HAMP* mRNA expressions, but other cells exhibited only slight expressions. qRT-PCR was then performed (Fig. 3B). HepG2, HuH-1, and HuH-7 cells expressed high levels of *HAMP* mRNA, compatible with the results of qualitative RT-PCR. Only slight or moderate *HAMP* mRNA expression was found in other cells.

3.4 Quantification of hepcidin isoforms in the culture medium of various hepatoma-derived cell lines

HLE, HLF, SK-Hep1, and human primary hepatocytes did not show any detectable hepcidin isoforms in their culture

media (data not shown). We could observe hepcidin isoforms in culture media from other cell lines. We also found that hepatoma-derived cell lines exhibited different patterns of hepcidin isoform expression and changes induced by various stimulations. Even among cell lines that secrete detectable hepcidin isoforms, four distinct patterns were discerned.

HepG2 cells expressed hepcidin-22 and -25, but not hepcidin-20. IL-6 significantly upregulated the expression of both isoforms, but holo-Tf suppressed hepcidin-25 expression (Fig. 4A).

WRL68 cells showed expression of hepcidin-20 and -22 even in control conditions, and holo-Tf stimulation increased both expressions significantly (Fig. 4B).

HuH-1 and HuH-7 cells expressed only hepcidin-25. IL-6 significantly increased the expression of hepcidin-25 in both cell lines. Addition of holo-Tf to the medium did not change the level of hepcidin-25 in HuH-1 cells, and even decreased hepcidin-25 in HuH-7 cells (Fig. 4C).

HB611, Hep3B, HuH-2, HuH-4, and HuH-6 showed expression of only hepcidin-20, but when holo-Tf was added, hepcidin-22 appeared (Fig. 4D).

We observed that some cell lines respond to holo-Tf by increasing the secretion of hepcidin-20 or -22. Although Lin *et al.* have reported *HAMP* mRNA expressions to be increased in mouse primary hepatocytes stimulated with

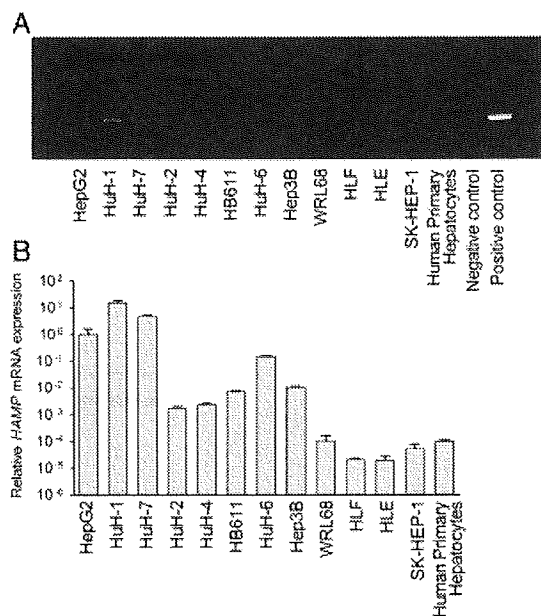


Figure 3. Expressions of *HAMP* mRNA in hepatoma-derived cell lines determined by qRT-PCR. (A) Qualitative RT-PCR showed that the expressions of *HAMP* mRNA were quite different among hepatoma-derived cell lines. (B) The expression levels of *HAMP* mRNA were standardized by 18S rRNA. Relative *HAMP* mRNA expression levels are shown as fold expression over the average of *HAMP* mRNA of HepG2 cells. HepG2, HuH-7, and HuH-1 cells highly express *HAMP* mRNA, while other cell lines exhibit only slight or moderate *HAMP* mRNA expressions.

human holo-Tf [24,] we believe ours is the first study showing upregulation of hepcidin at the peptide level by human holo-Tf in human cells. The physiological function of this effect is, however, not apparent since only hepcidin-25 is known to be involved in iron metabolism.

3.5 Determination of the changes of hepcidin expression in responses to various stimulations of HepG2 cells

The HepG2 cell line is one of the most frequently used hepatoma-derived lines for research and secretes mainly hepcidin-25, the only isoform reported to interact with ferroportin, into the culture medium.

Hepcidin expression has been reported to be regulated by inflammatory cytokines such as IL-6 and IL-1 β ; hence, HepG2 cells were stimulated with these cytokines. As shown in Fig. 5A, IL-6 significantly upregulates hepcidin-25, in agreement with earlier reports. A slight increase of hepcidin-22 was observed with IL-1 β stimulation, but no obvious upregulation was seen in hepcidin-25. Iron overload has been reported to upregulate hepcidin expression *in vivo*, but addition of holo-Tf and FAC in the medium suppressed

the expression of hepcidin-25. These results conflict with those of some *in vivo* investigations, but other transcriptional studies showed similar data to ours. Reasons for these discordances are still unknown.

Of interest, FAC increased hepcidin-22 expression by an unknown mechanism. DFO suppressed hepcidin-25 expression as expected change, but hepcidin-22 expression was increased. To investigate the effects of bacterial infections, LPS was added to media, and it significantly increased both hepcidin-22 and -25. Hypoxia is also reported to decrease hepcidin expressions [25], while in our studies CoCl₂ increased expression of both hepcidin-22 and -25. The furin inhibitor decreased hepcidin-25, but surprisingly hepcidin-22 was increased.

We then determined whether the inclusion of FBS influenced expressions of hepcidin types. Expressions of hepcidin-22 and -25 increased as higher concentrations of FBS were provided in the culture media, an effect that may have been due to the presence of cytokines in the FBS. HepG2 cells were then studied with various stimulants in FBS-free media. As shown in Fig. 5B, hepcidin expression levels were all lower than those determined in FBS-containing medium, and were almost at the limit of measurement by our method, but IL-6 upregulated hepcidin-25 expression. Holo-Tf and FAC depressed both hepcidin-22 and -25, as did the furin inhibitor. The finding that inclusion of FBS significantly influenced the expression of hepcidin deserves consideration from *in vitro* research using cultured cells.

4 Discussion

First developed for assaying prohepcidin [17], studies have used ELISA for measuring hepcidin in serum and urine. Lack of information about the physiological properties and importance of prohepcidin in clinical samples makes interpretation of these studies difficult. The main active isoform of hepcidin is believed to be hepcidin-25, but little information is available about how much translated prohepcidin in hepatocytes is released intact. In fact, Valore and Ganz have pointed out recently that most hepcidin released from the cells is the mature 25-residue form produced by furin [13]. Most recently, Ganz *et al.* developed a novel ELISA system for human serum hepcidin and it is expected that this method will be a powerful tool for clinical investigations, but it is unclear whether this method can be applied for *in vitro* research [23].

Methods utilizing MS-based modalities such as SELDI-TOF-MS have been widely used for measuring hepcidin in serum and urine samples [19]. However, the reliability of SELDI-TOF-MS for quantifying multiple molecules such as hepcidin isoforms is still unclear.

We recently developed a method utilizing LC/ESI-MS/MS for quantification of hepcidin [22]. We aimed to improve and extend this method to apply it for measurement of